

滞 歐 雜 記 帳 (その五)

工 學 士 山 本 峰 雄⁽¹⁾

5. 國營自動車道路の工事場訪問

大規模な未來の航空港テムベルホーフの視察を終へた我々一行は、11時近く工事場を出発して、ベルリナー街を飛行場の外廊の新しい建物に沿つて南下した。マリエンドルフから右に101號道路を南西に向ふ3臺の車の上には、初夏の陽光が明るく降注いで居た。ダイムラーベンツ工場の有るマリエンフェルトの工場地帯を過ぎると、郊外の並木道に入つて道は幾分狭くなつて、往來する大型貨物自動車の爲に除行する事屢々であつたが、其の度に土木監督局の威光で貨物自動車に遠慮して貰つて追越して行つた。グロースペーレンの附近で、遂に國營自動車道路の伯林南環狀線に着いた。いつも乍ら此の清淨な「白い道」を見ると、氣も晴々する思ひがするのである。コンクリートの平坦な白色の走路と中央の芝生との美しい對照、道路の左右に広がる麥畑、麥の中に咲く矢車草と紅罌粟、路傍を彩る薄公英の花、實に自動車道路は自然の中に溶込んだ人工の美である。車は時速100 軒で新鮮な自然の大氣の中を走つて居る。車上の我々は大自然の太陽と空氣の中で、此の自動車道路の恩恵に浸つて居た。「いつ來ても素晴らしいな」と誰かが風の中で叫んだ。それから話がテムベルホーフから自動車道路に移つて行つた。やがて先頭の車から合圖があつて、我々は北に向ふアウスファールト (Ausfahrt) の傍道で車を停めた。此處は南環狀線から北にアヴスの自動車道路

(1) 航空研究所

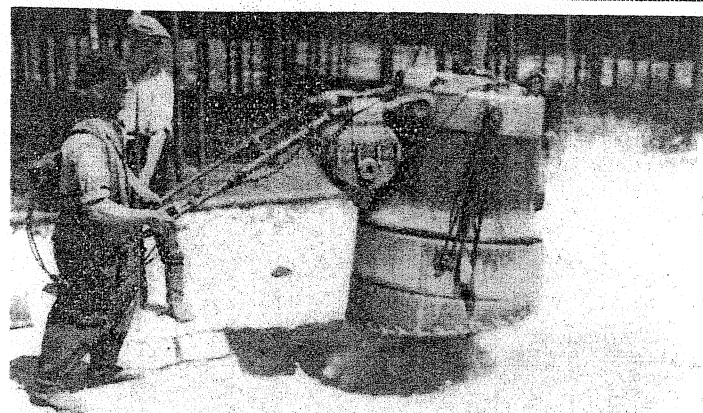
迄連絡するザールムンド附近の工事場の入口であつた。森を拓いて獨逸特有な白い砂地を掘起して國營自動車道路の工事場が右に曲線を書いて展開して居た。案内役の若い技師は我々を集めて此の工事場は南環狀線をアヴスに連絡する自動車道路の起點に當りザールムンドからテルトウの西を通り伯林、ポツダム間及シャーロットテンブルグ、ノワエス間の鐵道線路と1號道路の下を潜りニコラス湖を通過してアヴスに至るもので伯林近傍最大の工事場であると説明して呉れた。

此の説明が終つて、工事を順序に従つて見學する。先づ通稱「蛙」と呼ばれる地面搗固機械を見せられる。重量1噸、ピストンとシリンダーから出來て居る此の搗固機は、2本のハンドルが出て居て其の端に押釦がついて居る。電池を背中に付けた労働者が押釦を押すと爆發瓦斯に點火して飛上り落下のエネルギーに依つて地面を固めて行く。然かも接地面が前方に傾斜して居るから一度飛上つて落下した時は前に進んで居ると云ふ巧妙な機械である。エスリンゲンのデルマーク機械會社が自動車道路建設の爲に製作し、現在では何處の自動車道路の工事場でも之を使つて居ると云ふ話である。工事場を右に曲がると此處では既に搗固めを終つた路面の兩端に線路が敷設されて其の上を動力で走る地均し機が走つて居る。厚い板で作つた定規が緩速度でレールの上を走ると、後は巾約7.5米に互つて平坦な表面となりコンクリートを打つ基礎面が出來上る。更に其の上に特殊の紙を敷いて7米程度の間隔に膨脹接手の鐵筋が置かれ

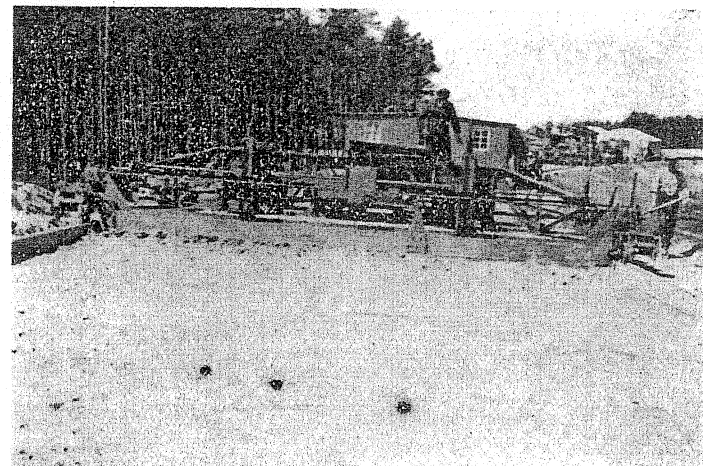
る。紙を敷くのはコンクリートの水分が砂に吸収されるのを防ぐ爲である。

此の様な入念な作業をした後には大掛りなコンクリート混合機が走つて來る。側方に付いたバケツに砂とセメントと小砂利を入れると之を混合機に入れて水を混じてよく混合すると上から路面に一定の厚さに流出す。然かも此の混合機の後面には多數の小型の槌が並んで居て流したコンクリートを動力で叩いて固めて行くのである。實際こんな大仕掛けなコンクリートミックスカーは見た事がない。

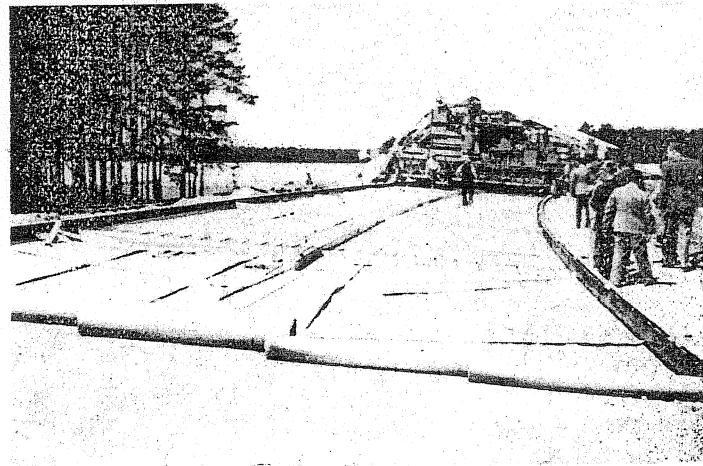
コンクリートを流した後は表面を規格通りに平均に仕上げる入念な手仕上げ作業が2回に互つて行はれる。之もレールの上に乗つた臺車の上に労働者が乗つて臺車を除々に動かして進んで行く。路面の仕上げが終ると、検査員の詰所を乗せた臺車が來て表面の仕上精度等を検査し、之が終ると木製の保護覆で路面を覆つて風雨に依る損害を防護して、表面が或る程度固まると保護覆をとつて蓆を被せて置く。愈々全體が固まると最後に撤水車で淨掃する。斯くして自動車道路が出來るのである。全ては「流れ作業」と云ふ事が出来る。一つの工事場で一日に巾26.5米の自動車道路が300米乃至400米出來上り、獨逸全國では毎年1000軒の自動車道路が出來上つて行くの



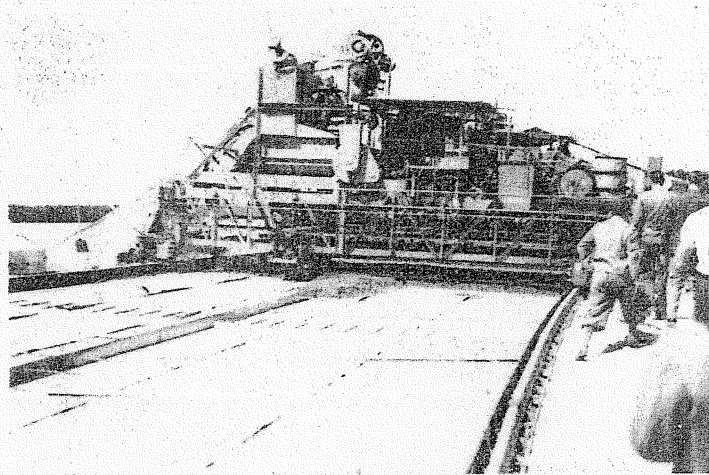
第1圖 搗固機 (著者)



第2圖 地均し機 (著者)



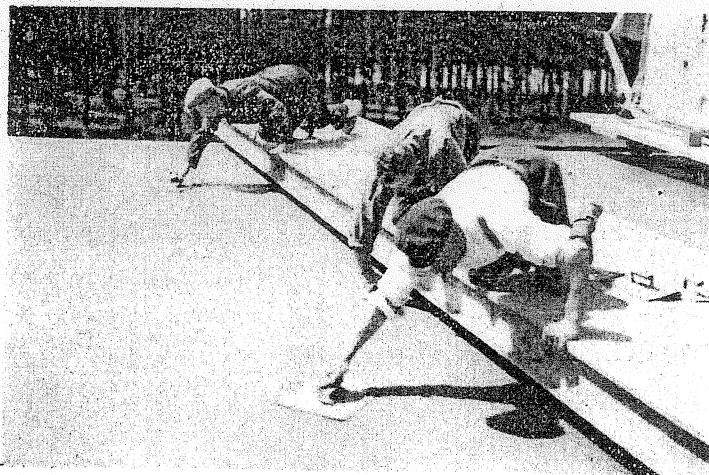
第3圖 地均し終つて紙を敷き膨脹接手を置いた所 (著者)



第4圖 コンクリート混合機(著者)



第5圖 第1回の手仕上げ(著者)



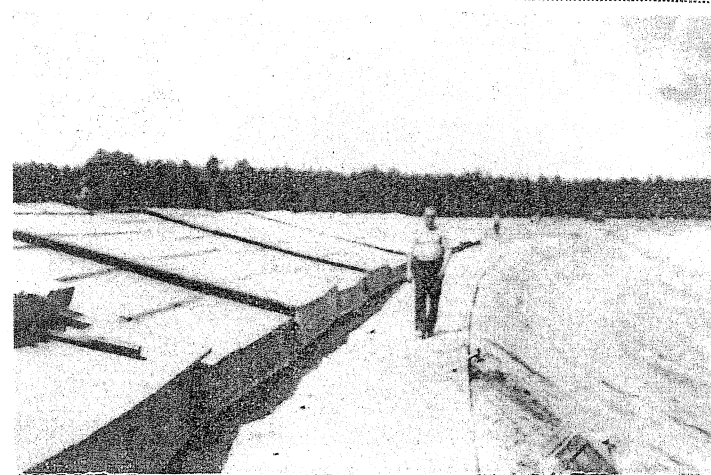
第6圖 最後の手仕上げ(著者)

は全く偶然ではない。又此の自動車道路の表面が平坦で自動車の燃料消費量が著しく減少し、國家經濟に大きな意義を有する事も、毎時100軒の速度で飛ばしても危険がないのも當然である。工事方法の進歩に驚かされた我々は之で此の工事場の見學を終り路面を降りて森を抜けて再び南環狀線に出た。ふり返つて見ると工事場は遙か彼方の森に續いて、森の裾には土盛りの砂を積んだ列車が忙しげに往復して居る。

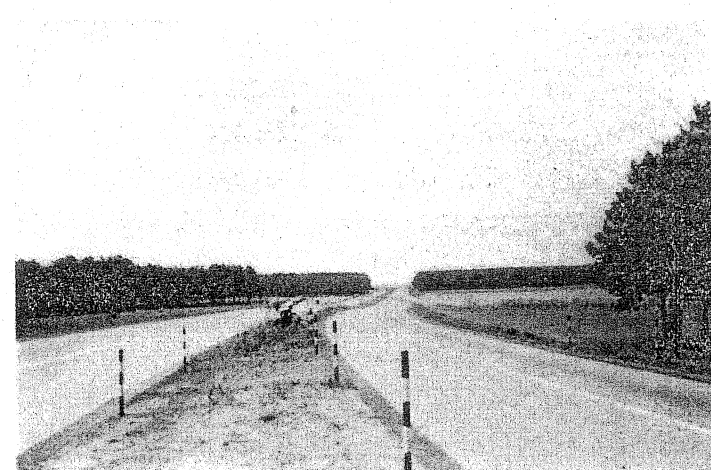
環狀線の入口には我々の自動車が置いてあつて運轉手の姿が見えない。技師連中が運轉手を捜して居る中に我々は思ひ思ひに附近を散歩して見る。森の中に入るとワルトマイスターの白い花が一面に下草を覆つて咲亂れて居る。今迄には人の入つた事のない森であらう。自動車道路の中央の芝地に入つて西を望むと南環狀線の端グランドウ迄森を貫いて走る道路は地平線の彼方に白く消えて居る。運轉手が陸橋の上を渡つて野花を摘みに行つたお蔭で自動車道路を歩いて見る事が出来た譯である。普通は自動車道路は休憩所や駐車場でなければ歩行する事は許されない道路であるからよい機会に恵まれた譯である。工事がしつかりして居るので高速の自動車が通つても少しの凹凸も出来て居ない事は歩いて観るとよく判る。

運轉手が見付かつて再び車上の人となり、今度は北上してテルトゥの附近の森の中に設けられた、此の工事場の労働者宿泊所を訪れる。森を2000坪許り切開いて周圍に移動式木造宿泊所が建てられ、中央は廣い芝生と花壇が設けられて居る。一隅には旗竿が樹てられて居てハーケンクロイツの旗が掲げられて居る。正午近いので食堂兼集會所の100坪許りの建物に案内される。正面は舞臺で國旗で飾られヒットラーの肖像が置いてある。夕食を終つた後や祭日には此處で種々な催物が行はれて労働者を慰安すると云ふ話であつた。我々は中央附近の一劃に席を占めた。労働者がいつも食べて居るものを御馳走しようと云ふ話である。持つてきたものはスキステーキやイタリヤ腸詰等の立派なものを、大きな皿に盛つたものであつて、お代りはいくらでもあるとの事である。獨逸の豪華船プレーメンの夜のダンスの會にサービスするカルテスパイゼも之よりは質と量に於て貧弱である。

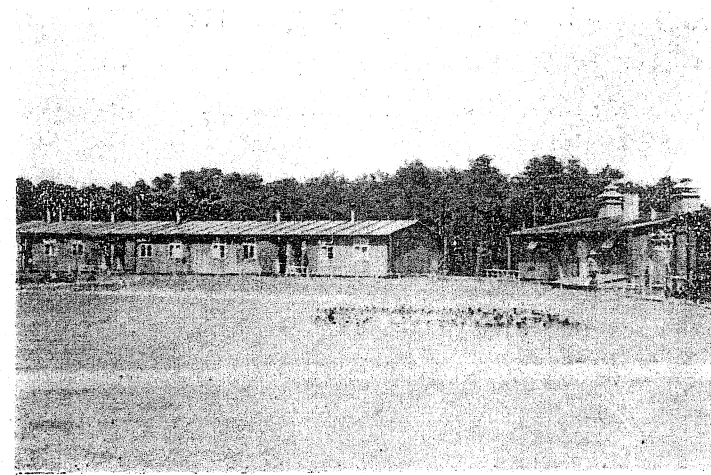
伯林の市中に住んで食物の不便には相當慣らされて居た我々は、労働者宿泊所で此の程度の御馳走にならうとは一寸思及ばなかつた譯である。それから話が食物の事になつた。案内の技師は獨逸の重要國策たる自動車道路の工事に從事する労働者は第一線の戰士とし



第7圖 保護覆(著者)



第8圖 伯林南環狀線(著者)



第9圖 自動車道路労働者宿泊所(著者)

て大いに優遇してバタ等も1週間280瓦を支給して居る、之は過激労働に従事して居る者は栄養を必要とするからだと説明して呉れた。成程我々はいよ時に175瓦のバタを買ふ事が出来たが、最近では125瓦しか買へないのだ。技師連中は彼等も同様で丁度労働者の半分であると苦笑して居る。二度目のお代りを平げて林檎汁を頂戴すると今度はとてつもない大きな茶碗に「本物の珈琲」を持って来て呉れた。食事が終つて雑談して居ると作業を終へた労働者が入つて来た。中に身體の大きな伊太利人らしい一人は、入つて来て席を占めると共に、ビールを3本立続けに喇叭飲みをして我々を驚かせた。

食物に驚いたついでに食料品庫を見せて貰ふ。バタやチーズや腸詰めや野菜等豊富に詰まつて居る。下宿の主婦に見せたらさぞ羨しがることだらう。隣りの調理場にはピカピカ光つた電気炊事釜が4個並んでゐる。

表に出て労働者宿泊所を見る。獨身労働者の宿泊所、家庭持ち労働者の宿泊所、醫療設備等順次案内される。外見はバラックであるが、中に入ると仲々しつかりした建築であり、窓には花が飾られ室内は清潔に保たれて居る。運動設備も一通り揃つて居る。獨身者は貯金をして故郷に送金出来る様になつて居るとの事である。

此の宿泊所の見學は獨逸の國家社會主義施設の指導原理と實踐を我々によく徹底させて呉れた。人里と比較的離れた自動車道路の工事場には此の位の設備は必要なのであらうと思はれるのであるが、工事請負者も政府の意を體してよくやつて居る事は充分諒解出来るのである。

労働者の慰安としては集會所内の催し物の外に附近の農村の人とスポーツをやつたり或は自動車道路に依る旅行をやつたりして居ると云ふ話である。

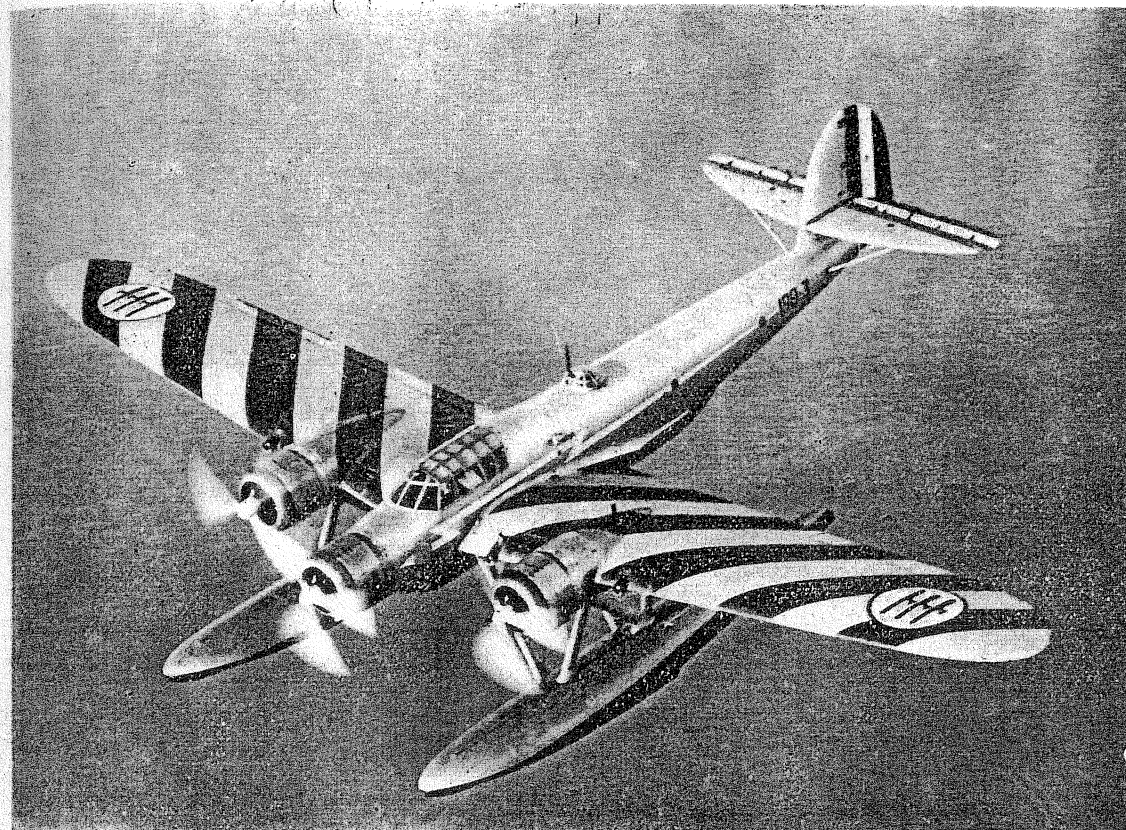
午後2時此處を出て更に北に進んでニコラス湖の南側鐵道線路と1號道路下を潜る大工事を見學する。伯林の附近に多い多數の湖沼を埋め、森を拓き此處に延びて居る工事場は此處では鐵道線路の下に鐵橋を入れてその下を潜るのである。多數の鐵材や鐵筋が置いてある。線路の下を通る鐵橋は一部出来上つて居る。之等の鐵材やコンクリートは國營自動車道路に關する限り全て國産でやつて居るとの話である。

南に下つた所には古い沼が横はつて居て道路は其の一部を埋めて走つて居る。此の沼を埋めるには有名なモーアスプレングク(Moorsprengung)と云ふ方法を採用して居るが此處で我々は其の代表的なものを見た譯である。此の方法は沼底の泥土を排除する爲に底に爆藥を仕掛けて置いて上に砂土を覆ひ爆藥に點火して側方に泥土を排除して其の跡に砂土を落して基礎地盤を作る方法である。

之等の大工事が完成すれば南環狀線からアヴスの自動車道路に連絡し自動車道路のみに依つて伯林中央に抜ける事が出来るのである。又大戦後に自動車交通及道路會社(Automobil-Verkehrs-und-Strasse GmbH)に依つて獨逸最初の自動車専用道路として登場したアヴスと之を範として作られたナチスの自動車道路が連絡する事となり、獨逸に於ける自動車道路發達史上意義ある時機を劃する事となる譯である。

一日の見學を終へた我々は再び集合してワンゼーゴルフ場の下を通る1號道路を走つて歸途に就いた。

カイザーアレーの角で自動車を止めた我々は一日を費して懇切にそして打とけて案内して呉れた若い技師連中に感謝の言葉を述べて別れた。彼等は自動車の中で手を振り乍らブラーガー街へ曲がつて行つた。



カント Z506B型水上爆撃機(伊太利) 一つの型で16の國際記録を占有する Z506 型の軍用化で、爆撃室及爆彈搭載室を設ける爲、胴體下面が膨んでゐる點が異つてゐる。506 型の記録中、特筆すべきは 1000 疋の利用荷重を積み、308 疋/時の平均速度で 5000 疋を翔破したものであつて、これ等は陸上機としても長距離爆撃機の最高水準を示すものである。アルファロメオ 126 RC 34 型空冷式星型 9 氣筒 770 馬力發動機 3 臺、機體は全木製で浮舟のみジュラルミン製、最大速度 高度 4000 米で) 390 疋/時、最小速度 130 疋/時 (井出昌吉)